第 52 回　中国地区英語教育学会

研究発表会（オンライン開催）

日　　時：　　令和 3 年 6 月 26 日（土）13:00～16:20

会　　場：　　オンライン開催

大会実行委員長：　高橋　俊章

大会事務局：　　猫田　和明

13:00～13:20	開会行事（第１室） ・会長挨拶 ・諸連絡	
13:30～16:20	自由研究発表　（第１室～第４室）	
	各会場の発表が終了次第、解散（閉会行事はありません）	

【自由研究発表】13:30～16:20

	司会:岩中　貴裕（山口学芸大学）	司会:猫田　和明（山口大学）	司会:猫田　英伸（島根大学）	司会:篠村　恭子（島根大学）
13:30 ~ 14:00	多様な言語使用環境に沿った英語理由接続詞選択メカニズムの解明と知見の教育的応用 佐々木　恭子	English Language invasion and English education in Japan 折本　鞠香	Flipgridを活用したスピーキング活動の効果に関する考察　−短期大学におけるオンデマンド型英会話授業での実践を踏まえて− 東　宮史	高専生を対象とした英語学習動機学習尺度の開発 倉増　泰弘
14:05 ~ 14:35	第二言語協働筆記における第一言語と第二言語　ーエンゲージメントの観点からー 萬田　智文	批判的視点から「異文化理解」を捉え直す 中原　瑞公	高校生の英語スピーキングに対する学習意欲を踏まえた指導実践　―効果的なリテリング活動の開発ー 田城　涼介 大谷　みどり 猫田　英伸	英語カポートフォリオを活用した到達度評価と自律学習者の育成 山田　賢治
14:40 ~ 15:10	協同学習支援を用いた英語ライティング授業実践 仲川　浩世	英語学習における探究的な深い学び 藤居　真路	中学校英語における学びの多様性に応じた授業づくり 嵐谷　恭子 川谷　のり子 鎌田　真由美 三成　拓亜 大谷　みどり 猫田　英伸	持続可能な能動的学修者の育成にむけて　ー　With/Post COVID-19 における理工系学生の事例ー 吉川　正美
15:15 ~ 15:45	A suggestion to make action research “scientific research” 関谷　弘毅	オランダの初等・中等教育機関における CLIL 授業から学ぶ 二五　義博	「やり取り」のある英語授業の作り方:「即興」で話させる工夫―その可能性と限界 千菊　基司	長期休暇中における大学生のオンライン英語語彙学習～モチベーション維持と効果について～ 渡橋　佳子 牧田　幸文
15:50 ~ 16:20	遠隔形式による初等外国語科の　模擬授業に対する教員志望学生の認識 宮迫　靖静			

第 1 室

	発表タイトル・発表者	発 表 要 旨
13:30 ~ 14:00	多様な言語使用環境に沿った英語理由接続詞選択メカニズムの解明と知見の教育的応用 佐々木　恭子（神戸大学大学院生）	英語理由接続詞 because, since, as, for の使用傾向を，オンライン記事の詳細ジャンルコーパス(CORE)での頻度を基に分類する。言語環境の種類別に選好される接続詞を統計的に整理し，英語表出時の理由接続詞選択メカニズム解明の一助とする。本研究は 2021 年 3 月に統計数理研究所内限定の非公開研究会で発表した内容を大幅に改変したものである。
14:05 ~ 14:35	第二言語協働筆記における第一言語と第二言語　―エンゲージメントの観点から― 萬田　智文（広島修道大学大学院生）	本研究は、協働筆記におけるやりとりを日本語で行う場合と英語のみで行う場合で、認知的・社会的・情意的エンゲージメントにおける違いを大学生対象に比較した。発表では、1ペアのやりとりの談話分析を報告する。日本語で行う場合と英語のみで行う場合とで、エンゲージメントの質の違いが明らかになった。
14:40 ~ 15:10	協同学習支援を用いた英語ライティング授業実践 仲川　浩世（大阪女学院短期大学）	本研究の目的は、中級レベルの学習者を対象に協同学習支援を用いて、どのようにライティングの内容が変化したかを報告することである。日本文化に関する原書を題材に、要約・議論・リフレクションエッセイを中心とした活動を実施した。本発表では、実践概要を振り返り、今後のライティング指導の可能性を考察する。
15:15 ~ 15:45	A suggestion to make action research “scientific research” 関谷　弘毅（Hiroshima Jogakuin University）	This study explores ways to make action research “scientific research.” Specifically, instead of the one-group posttest-only and one-group pretest-posttest design that most previous action research studies have adopted, I suggest a posttest-only design with nonequivalent groups. To solve the problem of comparing nonequivalent groups, I suggest an analysis of covariance (ANCOVA) model that can control for learners’ general academic abilities.
15:50 ~ 16:20	遠隔形式による初等外国語科の 模擬授業に対する教員志望学生の認識 宮迫　靖静（福岡教育大学）	本研究は，遠隔形式で実施された小等外国語科の模擬授業を中心とする演習科目における学生の認識を探った。この演習科目に対する認識をアンケート調査し，小等外国語科に係る模擬授業に対する認識を，模擬授業期間の初・中・終盤における学生のレポートに基づく共起ネットワーク図により比較し探った。

第 2 室

	発表タイトル・発表者	発 表 要 旨
13:30 ~ 14:00	English Language invasion and English education in Japan 折本　鞠香（広島女学院大学院生）	These days, English is regarded as a crucial skill and learned as a second or additional language. However, the importance of Japanese, what students really think, or need when it comes to English education, are often misunderstood or ignored. This research has revealed that we don’t have to worry about language invasion if we only focus on compulsory education, and suggesting alternative theories that might useful for English learning.
14:05 ~ 14:35	批判的視点から「異文化理解」を捉え直す 中原　瑞公（福岡県立田川高等学校）	英語教育において「異文化理解」が語られるとき、「多様性の尊重」や「寛容の態度」などのことばが用いられる。この語りの背後にはリベラル多文化主義の思想が見え隠れする。本発表では、リベラル多文化主義にもとづく「異文化理解」の問題点を論じる。加えて、今後の「異文化理

		解」研究には、批判的多文化主義の考え方への明示的な依拠が必要であることを論じる。
14:40 ~ 15:10	英語学習における探究的な深い学び 藤居　真路（広島県立尾道商業高等学校）	テキストの題材を基に，発展学習として SDGs に関する発表を行わせた。ワークシートとルーブリックを用いて，教えないで前のめりになる深い学びを目指した。身近な問題から役立つ課題を発見し，調べ学習に基づいて比較等を行い解決方法を考えさせた。さらに，調査・分析により新たな問いへと導いた。発表の中に自分の発表への問いを入れ，発表をやり取りの場にした。
15:15 ~ 15:45	オランダの初等・中等教育機関における CLIL 授業から学ぶ 二五　義博（海上保安大学校）	本発表は、2019 年 9 月に、オランダ・ナイメーヘンの初等・中等教育の学校にて実施した CLIL 授業の観察結果に基づく。発表前半はオランダの言語文化的環境や教育政策にも触れながら、後半はいくつかの教科内容の CLIL の事例を授業分析し、これらを CLIL の視点で日本の外国語教育にどのような形で取り入れることが可能かを検討する。

第 3 室

	発表タイトル・発表者	発　表　要　旨
13:30 ~ 14:00	Flipgrid を活用したスピーキング活動の効果に関する考察　−短期大学におけるオンデマンド型英会話授業での実践を踏まえて− 東　宮史（徳山工業高等専門学校）	オンデマンド型授業では、スピーキング活動が極めて困難であるが、その解決策として Flipgrid のようなオンラインツールの活用がある。本研究は、短期大学の一年生を対象としたオンデマンド型の英会話授業で、Flipgrid のようなツールが学習者の発話に与える効果について、事前・事後のアンケートと Flipgrid から得られたデータから考察する。
14:05 ~ 14:35	高校生の英語スピーキングに対する学習意欲を踏まえた指導実践 ―効果的なリテリング活動の開発― 田城　涼介（島根県立出雲高等学校） 大谷　みどり（島根大学） 猫田　英伸（島根大学）	本研究では、高校 1 年生を対象にスピーキング能力の向上を目指して教科書を題材にしたリテリング活動を行った。「可能な限り自分の言葉で語り直す」という指示のもと、3 クラスで指導の前後に 2 度のリテリング活動を行い、生徒の発話を録音分析した結果、全クラスで 1 分間あたりにおける平均発話語数の増加が見られ、1クラスでは統計的に有意な増加が認められた。
14:40 ~ 15:10	中学校英語における学びの多様性に応じた授業づくり 嵐谷　恭子（島根大学教育学部附属義務教育学校　後期課程） 川谷　のり子（島根大学教育学部附属学校園 学習生活支援研究センター） 鎌田　真由美（島根大学教育学部附属義務教育学校　後期課程） 三成　拓亜（島根大学教育学部附属義務教育学校　後期課程） 大谷　みどり（島根大学） 猫田　英伸（島根大学）	本発表では、通常学級で英語学習につまずく生徒の背景を見取り、UDL(学びのユニバーサルデザイン)の考えを取り入れながら生徒の学びの多様性に応じた学習活動をオプションとして提供した授業実践が、英語の苦手な生徒、さらには得意な生徒の学習意欲の向上や自分に合った学びの気づきに繋がったことを報告する。
15:15 ~ 15:45	「やり取り」のある英語授業の作り方：「即興」で話させる工夫―その可能性と限界 千菊　基司（広島大学附属福山中・高等学校）	中学生を対象にした授業で，社会的な話題について英語で話させる言語活動のあり方を検討するため，検定教科書の読み物教材を含む単元で，読後に「話すこと ［やり取り］」の活動を位置づけた授業を展開した。複数の活動を通じて得られた生徒の発話の変化を踏まえ，話す力を伸ばす授業のあり方を提案する。

第 4 室

	発表タイトル・発表者	発 表 要 旨
13:30 ~ 14:00	高専生を対象とした英語学習動機学習尺度の開発 倉増　泰弘（徳山工業高等専門学校）	高専生が持つ独特の英語学習動機を探るため、2021 年 5 月中旬に、高専 A 校本科生を対象とした英語学習の目的に関するアンケート調査（自由記述）を実施した。本発表ではその結果を報告し、2019 年に行った予備調査（5 件法）の結果と比較することで、今後の高専生を対象とした英語学習動機尺度の開発に向けた考察を行う。
14:05 ~ 14:35	英語力ポートフォリオを活用した到達度評価と自律学習者の育成 山田　賢治（笠岡市立新吉中学校）	戦後最大とも言われる教育改革が始まり，またコロナ化への対応という視点からも「履修主義から習得主義への転換」が注目されている。『英語力ポートフォリオ』という形で，生徒に評価項目の一覧を示して自律的に学習させ，指導者はあくまでファシリテーターとしてそれを支援する「ゴールから逆算した指導と評価」を，5ラウンドシステムとも連動させて提案する。
14:40 ~ 15:10	持続可能な能動的学修者の育成にむけて　－With/Post COVID-19 における理工系学生の事例－ 吉川　正美（English Learning Support）	COVID-19 の影響下で更なる不安を抱える学生が、主体的能動的な学びを重ね、レジリエンスを有する英語学習者へと成長できるように支援するために、教育課程及び環境要因を活用し、学習不安を軽減し学習動機づけや意欲の回復維持のためのプログラムを実践する。本研究は、その過程及び混合法の分析結果を考察するものである。
15:15 ~ 15:45	長期休暇中における大学生のオンライン英語語彙学習～モチベーション維持と効果について～ 渡橋　佳子（福山市立大学） 牧田　幸文　（福山市立大学）	夏季休暇中の大学生が、どのように自主学習を続けているかを調査するため、本研究では福山市立大学の学生を対象に、英語語彙力を高めるためのオンライン自習会を設定した。74 名の参加者は3種類の支援コースの中から1つを選択し学習した。オンラインテスト、アンケート、個別インタビューの結果から、参加者のモチベーション維持や学習効果を検証した。